

さくらのひと、みっけ！

日本酒好きもそうでない人も みんなが集うサードプレイスの名物女将



う え だ ま お
植田 真央 さん

植田真央さんが手がける、大字川合の栗原川沿いにある日本酒バー「ぼんしゅのところ」。一步足を踏み入ると、人と人が緩やかにつながれる心地よい空間が広がっています。

植田さんが日本酒と出会ったのは20歳のとき。祖父と飲んだ全国各地の日本酒の味わいや、原材料は同じ米と水でも多種多様な酒があるという奥深さに魅了されました。全国で日本酒を飲み比べたり、酒蔵で働いたり、さまざまな経験を経て、出産を機に桜井市に戻った植田さん。「日本酒の魅力を広めたい」という思いが後押しし、祖父の工芸美術店を一部自らの手でリフォーム。一念発起して「ぼんしゅのところ」をオープンしました。

さまざまな日本酒を少量ずつ味わえるスタイルはもちろん、明るくテンポの良い植田さんのトークも、多くの人をひきつけています。「飲む人はもちろん、日本酒を飲まない常連さんが来てくれているのもうれしい」と、ほほ笑みます。いまでは来店者主催で店内音楽ライブを開催し、地域イベントに出店するなど、交流の輪は広がっています。

7月でオープンから3年を迎え「気楽に来てもらえる店づくりを続けていきたい」と笑う植田さん。これからも日本酒の魅力を伝えながら、みんなの居場所であり続けます。

共に生きる

～アンコンシャスバイアス～

赤いランドセルを背負っていると聞くとその子は女の子だと思ったり、親が単身赴任だと聞くと父親のことだと思ったりした経験はありませんか。誰もが無意識のうちに持っている、偏見や思い込みの一例です。これを「アンコンシャスバイアス」といいます。

アンコンシャスバイアスは、過去に経験したことや見聞きしたことによって生まれるもので、自分では気付きにくいものです。この思い込みによる何気ない言動が、人を傷つけたり、自分や他人の可能性を狭めたりすることがあります。

そうならないためには、特に「どうせ」や「こうあるべき」といった決めつけに、注意が必要で

す。さまざまな人と会話し、異なる価値観に触れたときに、自分の言動を振り返ることが、気づきのきっかけになります。

アンコンシャスバイアスを完全に無くすことは難しいといわれていますが、意識して向き合うことで、人権侵害の防止や、自分自身の新たな可能性の発見につながります。そうした積み重ねが「誰もが尊重され、暮らしやすい社会」につながるのではないのでしょうか。

